



三木学園理事長
下村 康夫

姉妹校・岡山白陵創立五十周年

白陵の山里の木々も芽吹き初めてまいりました。同窓会の皆様方におかれましては、旧友や母校への思いを大切にされながらご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

平素は学園の充実発展に、また、在校生のキャリア教育の推進に温かいご支援ご協力を賜っておりますこと誠に有難く心より厚く御礼申し上げます。また、前会長は天野泰文様、前副会長湖中明憲様は長年にわたり大変お世話になりました。誠に有難うございました。心より厚く感謝申し上げます。新体制は私と同期の服部博明会長の下での船出となりましたが、白陵会の弥栄を切にお祈り申し上げます。

さて、白陵より十三年後の一九七六年に誕生した姉妹校の岡山白陵がお陰様をもちまして創立五十周年を迎えます。岡山白陵は岡山県南西部の赤磐市（開校時は赤磐郡熊山町）に所在し、姫路からJR山陽本線で丁度一時間の「熊山駅」が最寄り駅ですが、三木園長は山陽本線で当時一番乗降客が少なかった熊山駅の周辺で校地を探したという逸話が残っております。スクールカラーは「緑色」、目の前には滔々と吉井川が流れ、三木園長が「碧翠（へきすい）寮」と命名した瀟洒で豪華な男子生徒寄宿舎がシンボルの存在でした。開校七年目の一九八三年に三木園長が急逝され、先行きが案じられました。前受けの併願入試制度を採用して広範囲から生徒を迎え入れ、白陵を上回るスピードで成長し、創立三十周年を迎える頃には大学合格実績において一躍全国区に躍り出ました。しかしながら、「管理・知識・保守」から「自主・体験・革新」へと世間の評価を百八十度変えて新しいステージへと進んだのに対し

て、昔の白陵のイメージを色濃く残した岡山白陵は、公立志向の根強い岡山県において「公立中高一貫校」に苦戦し厳しい状況に置かれております。学園といったしは、両校は運命共同体、播州と備前においての共存共栄を図っているところであり、白陵会では、前々から岡山白陵の同窓会にも呼びかけて卒業生同士の交流を図っていただいております。これなどは、「卒業生のみならず、相寄り、相助けあつて、各地域、各職域に支部をつくり、それが枝葉となり、根を張り、幹を太らせて、白陵という巨木が未永く聳えることを願っております」と仰った三木園長の思いが実を結んでいると言えるのではないのでしょうか。卒業生同士のネットワークを強化して、後輩たちを温かくサポートいただき、母校支援の輪がさらに大きなものへと広がっていくことを願っております。

ところで、ご承知の通り、令和八年度から「高校授業料無償化（高等学校等就学支援金制度）」が始まります。これにより、私立高校の保護者にも所得制限を撤廃した大幅な教育費負担の軽減が図られ、公立と私立の学費負担の差が圧縮されております。しかしながら、あくまでも「授業料」のみの負担軽減を目的としており、授業料以外の納付金は対象となっており、また、学校を経由した形での保護者への助成であつて学校の収入増に繋がるものではありません。更に付け加えると、私立高校と同様の経費を掛ける中高一貫教育を実施している私立中学校については、公立とともに義務教育の一端を担っているにもかかわらず、授業料無償化政策から抜け落ちております。私学団体は、これらの支援拡充と私学助成、補助金増額の要望を毎年行つていくところであり、本学園も同様です。そして、少子化が加速する中であつて健全経営に意を用いつつ、教育成果を高めることによつて「選ばれる私学」として競争を勝ち抜きたいと思つております。白陵会の皆様方ますますのご活躍とご健康を祈り上げ、変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



校長
宮崎 陽太郎

新たな幕開けへ

同窓会の皆様には、日頃から本学園の教育活動に深いご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

六十年の輝かしい歴史を刻んできた白陵同窓会が、このたび服部新会長のもと、新たな船出を迎えられたことを大変嬉しく思います。今春二月、第六十一期生が卒業しました。服部会長は十期生でいらつしやいますので、彼らとの年齢差はおよそ半世紀となりますが、気の若さという点では会長も決して負けておられないのではないのでしょうか。いつも変わらずお元気で、私たちに活力を与えてくださっています。

学校は現在、令和七年度の終盤を迎えています。令和七年は干支が乙巳（きのとみ）で、まさにへビーな変化の一年でした。特に高校二年生の石垣・沖繩への修学旅行では、現地でインフルエンザに罹患する生徒が相次ぎ、大変な状況となりました。令和八年は丙午（ひのえうま）。情熱の炎を胸に、さまざまな出来事をうまく乗り越えていきたいものです。

白陵では「キャリア講演会」と称し、卒業生を中心に多様な分野で活躍される方々をお招きして、お話を伺っています。「AIによつて仕事が奪われる」という言葉を耳にする機会も増え、生徒たちからは多くの質問が寄せられます。将来どのような職種に就くべきかという不安もあり、一人ひとりが真剣に思索を深めている様子が伝わってきます。

そういうえば、マサチューセッツ工科大学が発表した「The GenAI Divide」(The GenAI Divide: A New Divide of AI in Business 2025) によれば、

企業による生成AI導入のうち約九十五%が期待されたビジネス成果を達成できていないといわれています。また、各地でデータセンター建設も盛んですが、大規模施設では常時約二〇〇万世帯分の電力量や、大量の水が必要であるにもかかわらず、これらの供給網が十分に整っていないという課題も指摘されています。目先の人気や過熱した景気に惑わされた「バブル」という点では、十四億の人口に対し四十億人が住める住宅が建設中か売れ残っているという中国の不動産バブルの構造と同じです。しかし、この停滞は技術史的に見れば、技術革新に伴う不可避な過程ともいえるでしょう。こうした時期を乗り越えてこそ、真のAI革命が訪れるのかもしれない。

先の見えない変化の時代であつて、生徒たちはどのような心構えで歩んでいけばよいのでしょうか。資本や国家といった大きな枠組みが人を一方的に動かしてきた構造は、すでに揺らぎ始めているように思われます。だからこそ、自分が何を考え、どのように行動するかが問われる、本質的な生き方が求められています。未来がどうなるかを聞くのではなく、自分がどう生きたいかが未来をつくるのです。「勝手にしない」と言われたとき、仲間と共に「勝手に良いものを作る」のが日本人です。AIに任せるところはAIに任せてよいが、その前にまづ、人間ができることは人間が行なうという発想が重要です。

ここで思い起こされるのが、ホイジンガが提唱した「ホモ・ルーデンス（遊ぶ人）」という概念です。この著書は「遊びは文化より古い」という言葉から始まります。遊ぶように生き、奉仕するようにならなければならない、学校での学びの方も、より本質的なものへと変わっていくでしょう。遊ぶように徹底して取り組めば、何でも好きになります。好きになれば学びは楽しくなります。実は、いまこそ人間にとつて新たな明るい時代への幕開けなのかもしれません。

副会長再任のご挨拶



総務担当
副会長
15期生
町田 直隆

このたび新たに就任された服部会長から委嘱を受け、副会長に再び就任致しました。副会長は九年目になります。よろしくお願いいたします。

さて、服部会長体制では三人の副会長がそれぞれ担当部門を持つこととし、私は総務部門を担当することになりました。

多くの同窓生に白陵に触れる機会や白陵会での活躍の場を提供することにより、白陵会の更なる活性化を図りたい、白陵の様々な卒業生団体との交流・連携を進め、同窓の輪を広げたいとの構想実現のため、微力ながら自分の役割を果たそうと考えています。

まず、総務として最初におこないたいことは、会則等の規則改正です。改正により現状に合致し白陵会活動をより活性化するものになりたいと思います。

現在白陵の卒業生（＝白陵会会員）は一期生から六十一期生まで一万六千二百四十四人、そして毎年発行している会報は約八割の会員に届いています。これは驚くべき数字でかつ誇るべきことだと思います。名簿発行委員会による五年ごとの白陵会名簿発行による成果だと感謝するところです。今後とも卒業生の住所等の情報提供、名簿広告にご協力いただくようお願い申し上げます。

とこのころ、この原稿を書くにあたり、自分がいつから白陵会に関わっているのかを調べるためAlma Mater 白陵のバックナンバーを調べて見ました。（白陵会ホームページで創刊号からの会報がご覧いただけます。）結果、昭和六十二年三月十日発行の第六号で、昭和六十一年頃常任幹事に就任したことが判りました。本当に時が経つのは早いものでですね。この三十八年間、広報委員会、研し委員会、五十周年記念総会実行委員会、そして昨年の六十周年記念総会実行委員会等々で多くの先輩後輩と楽しく活動させていただきました。本身に私にとって得がたい貴重な思い出と経験になりました。

校に、卒業後もこんなに永く関わってきたのは、後輩を大切にしてください。先輩方の魅力に、やはり言葉では言い表し難い白陵の魅力によるものだと思います。また、多くの白陵会役員の方々も、白陵を思い、ますます発展して欲しいという想いをもって白陵会活動に参画されています。卒業生諸氏のそんな白陵愛を育み、また受けとめられる会運営に少しでも貢献できればと思いますので、どうかご理解、ご協力、そしてご参画をよろしくお願い申し上げます。

同窓会とは



親睦担当
副会長
18期生
野添 正彦

昨年六月の総会にて、三期の天野前会長から十期の服部新会長へとバトンが引き継がれ、私も新たに副会長を拝命いたしました。諸先輩方が築き上げてこられた伝統の重みを感じつつ、少しずつでもいい同窓会へと発展させていければと考えております。

そもそも「いい同窓会」とはどのようなものなのでしょうか。私なりに考えるに、伝統を重んじつつ、新しい息吹を取り入れ、組織としてまとまりながら成長していくものではないかと思うのです。

そういつたものはいろいろあるでしょうが、わかりやすい例を挙げるならプロ野球のOB会でしょうか。プロ野球界も毎年新人が入団し、ベテランが引退していききますが、それを繰り返しながら球団としてより強くなることを目指しています。阪神タイガースであれば、一昨年にOB会長が川藤幸三氏から掛布雅之氏へと交代し、組織の結束がさらに強まった印象を受けました。現役のチームが積み重ねてきた技術やノウハウなどが不可欠です。OBの人数が貢献していることもあって、OBのチームが一年目に優勝できたのもOBとの良好な関係があったからではないでしょうか。さてわれらの同窓会にもどって考えてみると、同窓会とはどうあるべきでしょうか。私

の昔からの個人的な考えでは「先輩方も後輩たちも参加して気持ちのいい会」というのに尽きると思っております。これまでも同窓会のいろんな企画、催しに参加することで同窓会を盛り上げていくつもりでできる限り出席してきました。そうするうちに先輩方からお声掛けいただいたようになり、参加できなくなる後輩たちも増えてきました。そんな中、一昨年同窓会理事に推薦いただき、昨年副会長に任命いただきました。苦勞して同窓会運営に尽力してこられた先輩方、後輩たちがいる中で心苦しさも感じています。

この度私は親睦委員担当の副会長ということでも多く同窓生を同窓会に参加してもらおう役割を担ったと考えています。私の同期である十八期の同窓会は毎年年末に行っており、三十名前後が顔を出すもの、全体の同窓会への参加はまだ数名に留まっています。どうすればより多くの同窓生が「足を運んでみよう」と思えるのか。その答えは簡単ではないですが、皆さんと一緒に考えていければ幸いです。

最後に「同窓会とは」という問いかけに対する答えですが、「だれでも、いつでも帰ってこられる故郷のような存在」ではないでしょうか。ふと思いついたときに立ち寄れる温かな場所として、この会がこれからもあり続けてほしいと願っています。

先輩方はいままでお健やかに、そして後輩たちも気兼ねなく集えるそんな同窓会を皆様に一緒に作っていただければと思っております。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

副会長就任のご挨拶



広報・HP担当
副会長
19期生
尾上 尚樹

令和七年七月から白陵会の副会長を仰せつかりました十九期生の尾上尚樹です。服部博明副会長のもと広報委員会を担当させていただきますこととなり、広報委員Alma Materの発行と同窓会ホームページの運営の管轄が主な役割となります。

まず会報Alma Materについては、昭和五十六年の創刊以来今回で第四十五号に及び、今や一万名を超える白陵の卒業生や先生方へ同窓会の活動や学校の近況の報告に、紙面による情報発信を続けてきました。昔から白陵、たとえばカラーにしてビジュアル性を上げるとか、横書きにして横文字も表記しやすくするとか、今後は検討の余地もあると思っております。

紙面による提供でもあり年一回の発行で情報にタイムラグが発生するものも仕方ないところですが、内容に関しても従来のオールドツクスな挨拶や大学進学成績情報等の定例の情報だけでなく、時には特集を組んだりして違ったテーマに取り組みすることも検討します。他校の同窓会の会報等も参考にしながら、同窓生が関心のあり興味を持って読んでいただける情報をどれだけ盛り込んでいけるか今後検討してまいります。

次にホームページにつきましては、平成十五年に開設して以来二十余年余り継続しております。振り返れば当時まだ学校のホームページが開設されておらず、学校に先んじて同窓会がホームページを開設したのを覚えております。

開設以来ホームページがどれだけ広報的に効果を発揮できたかは、正直評価は難しいところですね。同窓生の中でもまだ一度もご覧になったことのない方も多いことと思っております。しかし、マンネリ化も滞りも滞りつつありますが、現在まで継続して更新を重ね情報発信を行ってまいりました。

同窓会のホームページをあなたがご覧になるかを考えます。まずは会員である同窓生、そして外部の方としては、白陵という学校に関心を持って検索された方が、並んで出てくる同窓会のホームページも訪問されてご覧になるケースが多いのではと考えます。そうなると同窓会の活動内容だけでなく、活躍中の同窓生の情報等を充実させて行くのが必要かと考えます。

さらに今後はAlma Materとの相互の連携が大切と感じております。会報のWEB化、総会をはじめとする同窓会行事のWEB告知、さらには参加の意思表示を葉書でなく、WEB上から回答いただくことで、効率化とコスト削減が図れます。それ以外にもそれぞれの特性を活かし役割分担しての情報提供が求められるものと考えます。このあたりの方向性を持ちながら、誌面としての会報とWEB上のホームページとの有機的連携を図りたいところです。以上まだまだこれから取り組みになりますので、温かく見守って下さいますようお願いいたします。

記念総会を終えて



総会実行委員長
譜久山 剛

令和七年（二〇二五年）六月二十二日。白陵会は創立六十周年という大きな節目を迎え、記念総会ならびに記念講演会を盛大に開催しました。

会場には世代を超えた多くの同窓生が集い、学び舎で培った絆と白陵の歩みをあらためて確認する、意義深い一日となりました。

記念総会では、これまでの同窓会活動の報告に加え、学校の近況や今後の展望について共有がなされました。創立以来、白陵が大切にしてきた「自ら考え、行動する」姿勢が、六十年の時を経て脈々と受け継がれていることが強く感じられました。

記念講演会では、UHA味覚糖株式会社代表取締役社長・山田泰正氏（二十四期）を講師に迎え、「UHA味覚糖の新規事業

開拓について」をテーマにご講演いただきました。

一九三六年に大阪市都島で菓子専門店山田屋として創業、プライベートブランドを作りそれをきっかけに味覚糖、UHA味覚糖へと会社の名前、形を変えていかれました。

UHAは遊ぶ波と書き（初めて知りましたが）、商品を通して豊かな生活を波のように広げていくことを会社の目的とされています。

様々な大学や研究施設との産学連携を行われ、社会実装も進んでいます。

例えば、鉄剤のグミ。鉄剤は飲みにくいけど、このグミなら二粒で二十二mgも鉄が摂れる」というお客様の声もご紹介され、お菓子屋さんで薬を作ることはむしろ必然かな、と薬剤を処方する立場としても学びとなりました。

例えば、オートファジー。足りない要素を補うのではなく、低下した機能を補うサプリメント。

時代の流れを先取りし、業態を作り出しマーケットを開拓し、進化を続けていく取り組みを伺いました。

山田氏は、変化の激しい時代において企業が果たすべき役割について語られました。講演の

中で特に印象的だったのは、「伝統とは守るものではなく、次の時代に合わせて進化させていくもの」という言葉です。白陵の、特に寮生活での経験が論理的に物事を考え抜く姿勢や、困難に直面しても本質を見失わない力の礎となっていることを語られ、多くの同窓生が深くうなずいておられました。

懇談の場では、久しぶりに再会した恩師や旧友との語らいに花が咲き、白陵で過ごした日々の思い出や、それぞれの現在について和やかな交流が生み出されました。

六十周年という節目を迎えた白陵会は、これまで築いてきた歴史と絆を礎に、次の時代へと歩みを進めていきます。

今後の課題として若い世代の同窓生の参加を増やせるようにしていきたいと思いました。

私事になりますが、実行委員長を引き受けてから、相次いで両親が死去しまして、それに伴う医療法人の組織変更にも忙殺され、諸先輩や後輩の委員のみならずさまに大変ご迷惑をおかけしました。

この場を借りてお詫びと御礼を申し上げます。

本当にありがとうございます。

2026年『白陵高校東京同窓会』のご案内

2026年の白陵高校東京同窓会を下記の通り開催いたします。ご参加よろしくお願いたします。

【日時】 2026年7月4日(土) 15時～

【場所】 CLUB PLUM (<https://www.clubplum.jp/>)

(東京都千代田区内幸町1丁目6-5 裏コリドー内)

なお、詳細は、後日、白陵会ホームページ及び東京白陵会ホームページに掲載いたします。

東京白陵会 一同



UHA味覚糖株式会社
代表取締役社長
山田 泰正

UHA味覚糖は「おいしさで時代の問題を解決する」を理念に掲げ、健康に貢献する食品づくりを進めてきた企業です。

一九四九年の創業以来、国内外で工場を拡大し、品質管理ではISO9001やFSSC22000などの認証を取得。本社所在地は大阪で、菓子・食品製造販売で国内売上五八十億円規模の企業へと成長しています。

UHA味覚糖の大きな特徴は、大学や研究機関との積極的な産学連携にあります。大阪大学とは咀嚼研究やオートファジー活性成分探索、京都大学とは大豆由来のメンタルサポート成分「SOYLAXR」の共同開発、近畿大学とは近大マグロ由来コラーゲンの活用など、多様な共同研究を展開。学生アイデアを商品化する取り組みも多く、京都土産やバレンタイン商品の開発にもつながっています。

また、奈良県立医大との柿渋鉛による新型コロナウイルス不活化研究、帝京大学との真菌コントロール成分DOMACの開発など、医療領域との連携も行っています。

臨床試験にも注力しており、京都大学・

大阪大学・九州大学など多数の大学と、抗うつ・抗認知症ペプチド、GLP-1分泌、術後腸管運動改善、ダイエット食品、口腔衛生、フレイル研究など幅広いテーマで共同研究を進めています。

市場面では、グミカテゴリーで国内トップクラスのシェアを獲得。二〇二二年「カヌレット」、二〇二三年「水グミ」、二〇二四年「忍者めし鉄の鎧」などヒット商品を連続して生み出し、二〇二四年にはSRIグミカテゴリーで日本一を達成しました。

特に注目されるのが「グミサプリ」事業です。二〇一五年発売以来、鉄・亜鉛・ビタミンなどの成分を手軽に摂取できるサプリとして市場を拡大。中でも「鉄&葉酸」は売上の中心で、摂取しやすさから継続率が高く顧客からは「鉄剤が合わないがグミなら続けられる」「立ちくらみが改善した」などの声が寄せられています。現在、鉄グミの大規模臨床研究を計画しており、貧血改善効果や鉄剤特有の副作用軽減を医学的に検証し、特別用途食品も視野に入れて研究を続けています。

また技術面では、口中で崩れやすく、かつ流通で壊れないという相反する特性を両立する製法を開発。さらに大阪大学消化器外科と連携し、味覚刺激で腸管運動を促進する「UHA瞬間サプリ」など、医療領域への応用も進めています。

近年はロンジエビティにも着目し、大阪大学発ベンチャーAutoPhagyGOと協働。オートファジー活性化による健康寿命延伸を目指し、XPRIZE Healthspanにも挑戦しています。食事・運動・睡眠・サプリを組み合わせた「オートファジーリブースト・プログラム」や、次世代サプリメント「オートファジー習慣」の開発を推進中です。

さらに、完全栄養食ブランドCOMPを子会社化し、栄養バランスを手軽に整える新しい食の選択肢を提供。パウダー、ドリンク、グミなど多様な形態で、忙しい現代人の食生活課題に役立てています。

UHA味覚糖は、菓子メーカーの枠を超え、食品・健康・ロンジエビティといった新領域へ挑戦する企業へと進化し続けています。

今後も「まだ見ぬ100億」の芽の芽を探し、社会課題を解決する新規事業創出を続けていく姿を見守っていただければと考えています。



白陵会News

二〇二五年度 在校生の活躍

男子バレーボール部

第六十九回兵庫高等学校総合体育大会バレーボール競技(五月三十一日～六月八日) ベスト八

第七十八回近畿高等学校バレーボール優勝大会出場(七月十八～十九日) 県代表として出場

第七十一回県高等学校バレーボール新人大会(二月三十一日～二月二日) 五位入賞

文芸部

第四十回全国高等学校文芸コンクール(十二月十三日)

文芸部誌「紅炎令和七年号」優秀賞受賞

将棋部

第五十二回兵庫高等学校将棋選手権大会(五月五～六日)

女子団体戦 優勝
男子個人戦B級 優勝

高校二年 谷口大河君 準優勝
高校二年 上月悠正君 三位入賞

第四十六回中学生選抜将棋選手権兵庫県予選大会(五月二十五日)

女流戦

中学二年 國本悠花さん 準優勝
第三十八回兵庫高等学校将棋竜王戦大会(七月十三日)

女子個人戦

高校二年 千竜結菜さん 三位入賞
第六十一回全国高等学校将棋選手権大会(七月二十九～三十日)

女子団体戦 五位入賞

有志
第六十三回中学生作文コンクール(十一月二十一日)

中学三年 原田悠生君

全日本中学校校長会賞

宇都宮香凛さん 優秀賞

数学・理科甲子園二〇二五(十月二十五日)

チーム「ぶりおん！」(高一・高二)

優勝

第十五回科学の甲子園全国大会(三月二十日～二十三日)

チーム「ぶりおん！」 兵庫県代表として出場



副校長 三木 龍太郎

創設者が遺したものと

今年度から副校長を務めさせていただいています。私は学園創設者三木省吾の長男に当たり、昨年度まで東洋大学附属姫路高校で英語教諭として勤務していました。この度、白陵の教壇に立つ機会を得ましたことを大変光栄に思っています。まずは、しっかりと建学の精神を受け継ぎ、微力ながら白陵の発展に尽力していきたいと考えています。

実際勤めるに当たり、改めて強く意識したのはやはり父の存在でした。直接授業を受けた二十期生までの方なら共感できる部分もあるかと思いますが、自分にも他人にも厳しく、とにかく言葉では表現しがたい独特の雰囲気や身にとった人物でした。同時に、分け隔てなく生徒に愛情を注ぐ優しい面を持ち合わせた人でもありました。

父は三十二歳という若さでこの学園を興しました。特別な後ろ盾があったわけでもなく、潤沢な資金があったわけでもありません。設備も人材も十分とは言えない中、ただ一つ、教育に対する揺るぎない信念と大きな夢を抱いていました。五十二歳で亡くなるまで、創設からわずか二十年で白陵は全国屈指の進学校へと成長していきましたが、そこに至る道のりは決して平坦なものではなかったと思います。

父は常に夢を語る人でした。そして、その夢を自分一人のものにせず、周囲を巻き込みながら現実に変えていく力を持っていました。朝から晩まで教壇に立ち、帰宅してからも電話や来客の対応に追われていました。日曜日であっても成績不振の生徒を自宅に呼び、補習を行い、納得いくまで教える。学校のことを考えない時間はほとんどなかったのではないかと思います。よく父が、高砂・岡山白陵両校の生徒全員の顔と名前を正確に憶えていたという話に驚かれるのですが、そんな

な父にとつては当たり前のことだったのかもしれない。命を削って白陵と向き合う姿勢は、生徒や時に教職員に対して「それで本当にいいのか」と、静かに、しかし強く問いかけるものでした。それ以上に背中ですすことで人を動かす、そうした人物だったと記憶しています。

一方で、父が目指したのは単なる進学校ではありませんでした。進学実績を上げることを目的とせず、旧制姫路高等学校に範をとり、生徒が学ぶことの本质を理解すること、第一義としていました。その象徴とも言えるのが授業内容です。トーマス・ハーディ、ジョージ・エリオットなどの原書を扱い、英語にとどまらずドイツ語やフランス語(岡山白陵)にも触れる機会を与える。受験に直結しないことでも、知的好奇心を刺激し、視野を広げようとする姿勢を与える。受験に直結を大切にしながら、「効率よく点数を取るための勉強ではなく、「学ぶ」とは一体どういうことか」を考えさせる教育を、父は徹底して貫いていたのです。

では、創設者である父が学園に遺したものは何だったのでしょうか。それは白陵で学びその精神を受け継いだ者であると思います。それこそが、父の生きた証であり、本当の意味で生涯をかけて遺したかったものであると確信しています。現在、本校では、高評価を得ている東京キャリア研修を始め、様々なキャリア教育が実施されています。そういったプログラムに多くの卒業生の方々に協力いただいています。後輩である本校生徒に向けて掛けてくださる言葉の中に、父が目指した教育の成果が確かに息づいているように感じます。自らの経験を率直に語り、生徒一人ひとりの心に響く話をしてくださる姿に、この学園の建学の精神が脈々と受け継がれてきたことを実感します。

最後になりますが、同窓会の皆さまがこうして母校である白陵に関わり続け、後輩たちを支えてくださっていることに、心より感謝申し上げます。父が蒔いた小さな種は、多くの卒業生の方々の手によって育まれ、今も確かに実を結んでいます。そのことを何よりも誇りに思い、今後も白陵の発展に誠心誠意取り組みたいと思います。

白陵会物故者

- 覺野洋一(旧職員) 令和七年三月 逝去
 - 高田光裕氏(五期生) 令和六年 逝去
 - 明石慎吾氏(七期生) 令和六年十一月 逝去
 - 須田 学氏(九期生) 令和七年三月 逝去
 - 大山宗克氏(十期生) 令和六年四月 逝去
 - 吉田康正氏(十二期生) 令和七年十月 逝去
 - 齊藤 功氏(十三期生) 令和六年 逝去
 - 堀田 浩氏(十三期生) 令和七年一月 逝去
 - 前田第二郎氏(十四期生) 令和六年十二月 逝去
 - 小川隆夫氏(十五期生) 令和七年十月 逝去
 - 松岡真治氏(二十期生) 令和六年 逝去
 - 加納明利氏(二十四期生) 令和七年六月 逝去
- 心より、ご冥福をお祈りいたします。

転退職教職員紹介

- 前田 勝弘先生(数学) 令和七年三月 昭和五十八年四月～令和七年三月
- 中村 大吾先生(数学) 令和七年三月 昭和六十二年四月～令和七年三月 ※岡山白陵へ転勤
- 岡原 浩文寮監(寮) 平成二十六年五月～令和七年三月
- 中島 佑太先生(英語) 令和七年二月 令和三年四月～令和七年二月
- 平野 福子先生(養護) 令和七年三月 令和四年四月～令和七年三月
- 高田 治先生(美術) 令和七年三月 令和四年四月～令和七年三月
- 高須 峰生先生(英語) 令和七年三月 令和六年四月～令和七年三月
- 石井 美穂先生(数学) 令和七年三月 令和七年一月～令和七年三月

白陵会役員名簿

役名	期	氏名	役名	期	氏名	役名	期	氏名	役名	期	氏名
会長	10	服部 博明	常任幹事(総務)	9	手井 幸男	常任幹事(総務)	39	根木 厚	常任幹事(総務)	58	田中 周
副会長(総務)	15	町田 直隆	// (親睦)	10	加藤 雅宣	// (総務)	40	赤澤 剛	// (総務)	59	黒田 大地
// (親睦)	18	野添 正彦	// (総務)	12	西庵 利彦	// (総務)	40	廣江 祥子	// (総務)	59	吉澤 七海
// (広報・HP)	19	尾上 尚樹	// (親睦)	13	矢野 善人	// (HP副委員長)	41	竹内 雅浩	// (総務)	60	坪田 彩那
会計・理事	34	上垣 孝俊	// (総務)	14	片山 安孝	// (総務)	42	賀川 拓哉	// (総務)	60	平 遙仁
理事	4	岸本 和男	// (総務)	14	竹中 邦夫	// (HP)	42	宮崎はる香	校内幹事(総務)	11	小紫 一貴
// (総務)	8	黒川 仁	// (総務)	16	田中 正一	// (HP)	43	八杉 佳奈	// (総務)	12	畔上 昇
// (親睦)	9	村角 伸一	// (総務)	18	秋田 直樹	// (総務)	44	立田 裕昌	// (総務)	12	長野 恭也
// (親睦)	10	吉田 達哉	// (総務)	19	牛尾 英樹	// (総務)	44	恒光 綾子	// (総務)	12	山口 透
// (広報)	11	志方 正彦	// (総務)	21	河合 恵介	// (総務)	44	上月 理加	// (総務)	14	久保 博彦
// (総務)	11	来栖 昌朗	// (親睦)	22	野津 康弘	// (HP)	45	三浦 学登	// (総務)	15	村上 幸生
// (広報委員長)	13	水田 堅	// (広報)	23	三木 健史	// (総務)	45	坪谷 沙紀	// (広報)	15	西 善弘
// (総務)	13	飯島 義雄	// (親睦)	23	中里 寛	// (HP)	46	戸田 美希	// (総務)	30	二階堂聖子
// (総務)	15	福永 安洋	// (総務)	24	奥本 光廣	// (総務)	46	宮脇 規壽	// (総務)	36	杉岡 央基
// (親睦)	16	三木谷研一	// (総務)	24	藤原 省悟	// (総務)	47	戎 直哉	// (HP)	37	神尾 祐輔
// (総務委員長)	17	岡野 清和	// (総務)	25	多根 正明	// (総務)	47	中谷 英巴	// (総務)	39	石岡 知久
// (総務)	20	石井 秀武	// (HP)	26	大西 康記	// (総務)	48	井上 千華	// (総務)	40	井上 直人
// (親睦)	21	妻鹿 佳郎	// (総務)	27	山田 将義	// (総務)	48	建石 真一	// (総務)	41	垣内 康孝
// (総務)	23	譜久山 剛	// (広報)	28	柿本 晴彦	// (総務)	49	立石裕之輔	// (広報)	43	野瀬 彩弥
// (総務副委員長)	24	田中 一成	// (HP)	29	岡田 康裕	// (広報)	49	橋本 瑞季	// (総務)	44	山田 祥五
// (広報)	25	山田 泰正	// (HP)	30	上新 貴弘	// (総務)	50	池上 学歩	// (総務)	44	川口 敬義
// (親睦委員長)	26	萩原 唯典	// (親睦)	31	後藤 大悟	// (総務)	50	津田 彩花	// (総務)	45	井上 僚介
// (親睦)	29	山下 展成	// (総務)	31	木下 智晴	// (総務)	51	佐々木優一	// (広報)	46	神田 澄恵
// (総務)	29	濱田賢太郎	// (HP)	31	村山 稔	// (HP)	51	笹久保茉奈	// (総務)	49	福永 航平
// (広報副委員長)	35	中村 亮太	// (総務)	32	酒井 勇人	// (総務)	52	稲垣 大翔	// (総務)	50	中村 聖
// (親睦副委員長)	35	安田 孝弘	// (総務)	32	小澤有紀子	// (総務)	52	富木 琴乃	顧問(理事長)	10	下村 康夫
会計監査(総務)	28	上山 奉伯	// (総務)	33	藤井 拓郎	// (総務)	53	岡田 弦大	// (校長)	11	宮崎陽太郎
// (広報)	49	安井 浩起	// (総務)	33	北尾由美子	// (総務)	53	後藤 真由	// (教頭)		高見 繁統
書記(HP)	39	清水美沙子	// (総務)	34	牧野 琢丸	// (総務)	54	佐々木仁哉	顧問	1	遠山 寛
常任幹事(総務)	1	芝本真須美	// (総務)	35	阪本 覚	// (総務)	54	篠田 侑果	//	1	黒川 芳一
// (広報)	1	正井 和野	// (親睦)	36	近藤 理恵	// (総務)	55	東村 颯起	//	2	川副 義文
// (親睦)	4	森崎 晴知	// (総務)	37	岸上真紀子	// (総務)	55	三木万梨子	//	2	湖中 明憲
// (総務)	5	塩崎 育男	// (HP)	37	亀山 信生	// (総務)	56	武田 千輝	//	3	沼田 好道
// (親睦)	5	橋本 義仁	// (総務)	38	上野 紘之	// (総務)	56	田中 詩歩	//	3	天野 泰文
// (親睦)	6	福井 孝昌	// (総務)	38	堀 素史	// (総務)	57	荒井 奏音	//	6	上田 喜裕
// (総務)	7	萩本 義郎	// (HP委員長)	38	住吉 寛紀	// (総務)	57	吉尾 侑悟			
// (広報)	8	前川 裕司	// (総務)	39	堂國久美子	// (総務)	58	岩倉 万莉			

(令和8年3月1日現在)

大学入学試験合格者数

■国公立大学

※「国公立大学合格者計」は準大学を含む

大学名	R7年	R6年	R5年	R4年	R3年	R2年
東京大学	17	16	16	20	15	15
京都大学	18	14	16	16	24	25
大阪大学	9	13	14	10	13	17
神戸大学	14	19	17	9	17	17
東京科学大学(旧東工大)	1	1	1		2	2
一橋大学		1	1		1	3
東北大学	2	2	1	1	2	1
名古屋大学	2		1	3	2	1
九州大学	5	6	3		10	3
北海道大学		5	4	3	3	3
筑波大学	1	3	2	2		2
岡山大学	8	1	4	5	17	10
広島大学	1	5	2	7	5	6
大阪公立大学	13	5	9	8	9	2
上旧市立、下旧府立					5	5
その他	53	56	70	55	59	66
合格者計 (内医学部)	144 (31)	147 (32)	161 (39)	139 (28)	184 (48)	178 (39)

■私立大学

大学名	R7年	R6年	R5年	R4年	R3年	R2年
早稲田大学	17	27	24	20	22	19
慶應義塾大学	10	22	23	14	26	20
上智大学	4	2	4	3	7	
中央大学	6	6	8	5	2	2
東京理科大学	6	4	16	11	8	14
明治大学	6	7	7	4	6	1
関西学院大学	46	40	30	19	29	23
関西大学	13	20	19	19	17	6
同志社大学	58	41	35	12	57	31
立命館大学	23	31	32	26	35	28
京都薬科大学	6	6	8	1	6	6
大阪医科薬科大学(医)	7	3	6	5	2	9
神戸薬科大学	5	4	2	3	4	4
兵庫医科大学(医)	9	7	9	8	19	9
その他	56	64	67	76	59	65
合格者計 (内医学部)	272 (27)	284 (36)	290 (34)	226 (28)	299 (46)	237 (41)
卒業生数	178	186	180	189	189	186

令和6年度 収支決算報告書

令和6年4月1日～令和7年3月31日

単位/円

収入の部	予算額	決算額	決算-予算
前年度繰越金	18,312,059	18,312,059	0
会費収入	4,830,000	4,977,000	147,000
年会費(5年分)(60期生)	2,730,000	2,670,000	△ 60,000
年会費(1～54期生)	1,800,000	2,052,000	252,000
定例総会会費	300,000	255,000	△ 45,000
会費外収入	1,020,300	1,483,822	463,522
名簿収入	10,000	0	△ 10,000
広告収入	0	0	0
利息収入	300	2,022	1,722
雑収入	1,000,000	1,481,800	481,800
寄付金	10,000	0	△ 10,000
記念総会積立金繰入収入	0	0	0
合 計	24,162,359	24,772,881	610,522

支出の部	予算額	決算額	予算-決算
事務費支出	315,000	250,774	64,226
会費管理手数料	130,000	142,032	△ 12,032
消耗品費	50,000	3,000	47,000
印刷費	60,000	40,700	19,300
通信費	50,000	56,022	△ 6,022
支払手数料	20,000	9,020	10,980
雑費	5,000	0	5,000
会議費支出	500,000	502,500	△ 2,500
理事会費	200,000	291,750	△ 91,750
役員会費	200,000	177,750	22,250
委員会費	100,000	33,000	67,000
事業費支出	2,900,000	2,539,490	360,510
定例総会費	1,100,000	954,862	145,138
会報発行費	1,300,000	1,195,350	104,650
ホームページ維持費	100,000	55,000	45,000
卒業記念品費	250,000	222,728	27,272
慶弔費	150,000	111,550	38,450
備品費支出	0	0	0
OB会活動助成金	300,000	240,000	60,000
渉外費支出	150,000	0	150,000
在校生部活動奨励費支出	200,000	0	200,000
予備費支出	300,000	20,000	280,000
寄付金	0	0	0
小計	4,665,000	3,552,764	1,112,236
記念総会積立金	200,000	200,000	0
学校寄付積立金	500,000	500,000	0
次年度繰越金	18,797,359	20,520,117	△ 1,722,758
合 計	24,162,359	24,772,881	△ 610,522

編集後記

前回の「丙午」の春に最初の卒業生が本校を旅立ち、その時から同窓会が立ち上がりました。その同窓会も「還暦」です。卒業生も一万を超える規模になりました。公私にわたって様々なジャンルで活躍されている方々がおります。「丙午」の年は「きわめて強いエネルギーを内包する年」と言われます。この一年を新たな起点とするためにも同窓会会員の皆様の活躍の情報をお寄せください。よろしくお願ひします。

令和6年度 会務報告

実施日	内 容	場 所
令和6年5月10日	理 事 ・ 役 員 会	ホテルモントレ姫路
令和6年6月16日	白 陵 会 定 例 総 会	ホテルモントレ姫路
令和6年9月20日	理 事 会	福 亭
令和6年11月3日	り よ う ゆ う 会	相生カントリー倶楽部
令和6年11月16日	理 事 ・ 役 員 会	ホテル日航姫路
令和7年1月24日	理 事 会	福 亭
令和7年2月11日	第60回白陵高等学校卒業式(会長・副会長出席 卒業記念品贈呈)	白陵高等学校
令和7年3月	会 報 第 4 4 号 発 行	